

みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成27年11月19日(木)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 徳光公民館
- 参加者数 : 【市民】39人、【市職員】市長ほか16人、【総計】56人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 地域代表あいさつ
- 5 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

11月14日に、枕崎市の西南西160km付近を震源とする地震があり津波注意報も出された。このような地震が、身近でいつ起こるかわからない。自然災害への対策を講じる必要があると思うが、市民への広報・周知はどの程度進んでいるのか。避難方法等に関するマニュアル的なもので指導すべきではないかと思う。

<市長>

災害対策については、周知の手段としてデジタル防災無線の整備を行い、地域における防災計画の策定にも取り組んでいる。また、地震のみならず、台風や豪雨による災害など、様々な災害を予想した取組をしている。

<総務部長>

地震発生時には、気象庁から市役所にJ-ALERTで即時に通報がある。市危機管理課を中心に情報収集をしたり、必要に応じて防災行政無線で放送する。夜間や職員が不在の場合は、消防署からも防災行政無線で放送することが可能である。携帯のエリアメールでも一斉に速報が流れ、防災行政無線でお知らせをした内容については、南日本放送のデータ放送でいつでも確認できるようになっている。

現在、地域防災計画の見直しを進めており、地域住民の命と財産を守ることは、市役所の最も大切な使命であると考えている。

<市長>

公民館長等にも、どのような地域防災計画を策定し、どのような取組をするということを報告したい。

【市民】

最近、長崎鼻の松林等で松枯れが目立ってきている。松林は風害や塩害を防ぐ防災林として大きな役割を果たしてきたが、その機能が失われつつあり農業への影響も懸念される。市は、どのような対策を考えているか。ぜひ、松を残して被害が出ないようにしてもらいたい。

<市長>

ヘリコプターで松枯れ対策の薬剤を散布したところ、タバコから残留農薬が検出され、売れなくなったことがあった。これが、2年続いた。もし3年続いたら、JTは買取りをしないということだったので薬剤散布を行わなかった。しかし、松枯れが目立ったため、去年はラジコンヘリを使って薬剤散布を行った。それでも、食い止めることができなかった。多額のお金をかけて、樹幹注入

も行ったが、なかなか効果が見られなかった。現在、抜本的な対策を検討中である。皆さんの意見を聞きながら、取り組んでいかなければならない。

<農政部長>

平成 24 年度から松枯れが増え始め、26 年度には全体で 8,000 本の松が枯れている。27 年度はさらに上回るスピードで発生しており、開聞岳の裾野等でひどくなっている。また、松 1 本当たりに 2～3 万円の費用がかかる樹幹注入も行っており、26 年度には 620 本の松で実施した。27 年度も 250 本を予定しているが、望比公園でもひどくなってきており重点的にしようと考えている。戸ヶ峰については樹種転換も試みたが、海岸林は海からの風や潮等により松でなければ育たないということで植栽することになっている。10 年後、20 年後を見据えて、防災機能・保健機能を維持していくために、昨年度から植林を行っている。

<市長>

防風林としての役割。農家にとっては、松がなくなると大変であろうことが予想される。重要松・景勝松については、樹幹注入を行い保護に取り組んでいる。また、松くい虫に強い松を植えつつある。しかし、それさえも松くい虫にやられる現状もある。抜本的な対策をとらなければ、戸ヶ峰辺りの農業に、非常に大きな影響があるだろうと認識している。何とか早く、解決しなければならない。松くい虫に強い広葉樹等への樹種転換も行っているところである。

【市民】

徳光小学校の北側交差点からの西中学校踏み切りまでの市道は、今や観光道路になっている。また、マイカーや農業用トラック・トラクター等も多く通る。しかし、道路には亀裂や凹凸があるため、改修を急ぐ必要があるのではないだろうか。これから、国内外から増えるであろう観光客へのおもてなし、そして、農業の振興にもつながると思うので、ぜひ対応をしてもらいたい。土地改良区との交渉も必要になると思うが、3～4m幅の側溝にコンクリートのふたができると駐車場にもなり、また、周辺の雑草の管理もしやすくなり環境整備にもつながると思う。

<市長>

西大山駅に行く観光バスも多く、農耕用のトラクター等も通っており、事故があってはならない。

<建設部長>

市道については、状態が悪いと各地区から要望を受けている。現在、市道は 945 路線あり、距離にして約 570km である。この中で、240 路線程度は整備計画に載せてある。年次的に整備を進めているが、道路の損傷状態に対応しきれない現状があるのではと思っている。平成 25 年から、道路舗装の補修等も補助対象となり、平成 26 年度から本市でも舗装補修事業を取り入れて進めている。岡見ヶ水利永線は、利永のひび割れ等の方がひどかったため、利永の方から順次、整備を進めている。

また、西大山駅の入り口は改良拡幅を行っており、観光客の利便性はだいぶ高まったと考えている。今後、西大山駅から徳光地区に向かう道路は、観光道路・幹線道路でもあり交通量も多いので、整備について検討しなければならないと思っている。拡幅をすると地権者等の協力も必要になるので、区長や地区の方々にも、どのような整備が必要なのか相談させてもらいたい。

<市長>

区の方々、公民館の方々等が、「どうしても必要だから、みんなで協力しよう」というのがあると、地権者の承諾を得やすく事業として進めやすい。

【市民】

西大山駅に関連して、鐘を設置してあるのはなぜか。黄色のポストの説明看板が斜めに立っているため、光が反射して読みにくい。待合所にはごみが散乱しているが、中園久太郎商店に掃除を委託しているのか。観光バスが来ると邪魔になって、トラクターや自家用車が並ぶ。バスの駐車場をどうにかできないものか。

また、垂水市等では、カンパチの餌やり体験など修学旅行の誘致をしている。指宿港や山川港を発着する大型の漁船等をチャーターして、股河洲から長崎鼻、開聞岳を眺めるというプランはどうだろうか。

<市長>

海からの観光については、興味深く大切だと思う。ぜひ、取り入れていきたい。修学旅行が一番多いのは、伊佐・垂水である。伊佐はホテルがないため、民泊をしながら農業体験をさせる。これも、学ぶべき点が多いと思う。指宿の農業は、日本に誇れる食料供給基地でもあるので、様々な観点から勉強し、可能な限りやっていきたい。西大山駅周辺のごみについては、解消するために早速取り組みたいと思う。

<産業振興部長>

西大山駅には、幸せを呼ぶ黄色いハンカチ等にちなんだ黄色いポストがあり、JPも収集に来ている。幸せを招くということで、カップルが二人で鐘を鳴らし永遠の愛を確認するというようなことも含めて設置している。説明看板については、開聞岳をバックに日本最南端の駅という自然の背景に配慮して、視界を遮らないよう斜めに設置している。設置後、2年しか経過していないので、今後検討していきたい。ごみについては、中園久太郎商店のご厚意で清掃をしてもらっている。公衆トイレについても、中園久太郎商店が掃除をしてくれており感謝している。行政としても、何らかの手助けをしていかなければならないと思う。指宿の股河洲のアイデアについては、指宿クルージングということで観光協会がしており、カンパチの餌やり体験等、相当数の体験メニューも観光協会が作っている。周知不足もあるかと思うので、市と観光協会が合同でPRしていきたい。

【市民】

年初めに菜の花マラソンと菜の花マーチが、10月に高校駅伝と中学駅伝が行われており、選手や応援する方々の宿泊が結構あると思う。そのような行事が、その間あまりないのではないか。中国や韓国から鹿児島市内には船で来ているが、指宿まで来てもらえるような対策を行い、宿泊してもらわないと指宿にお金は落ちない。薩摩川内市は設備が整っており、野球・バレーボールなどの合宿が行われている。指宿は温泉もありながら、そういった誘致に力を入れていないのではないか。また、竜宮神社は地元で苦労しながらやっているが、市としてももう少し協力してもらえないものか。

<市長>

中学校駅伝で、男女合わせて約80チームが参加した。1チームあたり保護者が20人程度、1,600人が宿泊する。離島のチームは、4日間泊まる。1日、宿泊費を含めて一人10,000円位だとすると、中学駅伝だけで4,500万円の経済効果がある。これに高校駅伝を含めると、6,000万円位になる。スポーツ合宿には、必死になっている。マラソンもそうであるが、人柄やもてなしにふれた、食がおいしかったと喜ばれる。しかし、どこも一生懸命やっているのだから、これまでと同じようにはいかないと思う。

【市民】

浜兎ヶ水の消防分団車庫の土地購入及び建設は、現在どのようになっているのか。

<総務部長>

今年度の予算で、用地購入費用及び設計費用を計上している。現在、地区や消防団の皆さんに相談しながら、地権者とも協議をしているところである。話がまとまれば、今年度中に設計を終え、来年度には建設できるよう努めている。

<市長>

できるだけ早く、整備したい。

【市民】

地熱発電所の南側の市道に貯水池があるが、金網が道路の方に倒れかかっている。また、樹木がありコンテナ車が通りにくい所がある。ちょうどカーブになっており危ない。草も払いにくいのが、市が対応してくれるものなのか。

<市長>

すぐに点検に行って、対応したいと思う。

<建設部長>

明日にでも確認し、対応方法を検討したい。

【市民】

ヘルシーランドの和風風呂のかけ湯用水道にだけ、カバーが付いていない。すぐ隣は洗い場で、子供たちは口を付けて水を飲んでいるため、衛生面からもお願いしたい。また、ヘルシーランドは老朽化が進み、故障も多いようであるので早急な補修をお願いしたい。

<市長>

このようなことには、すぐに対応しなければならない。これからヘルシーランドでは、様々な計画をしており、指宿で一番の観光のメッカになるだろうと思っている。

<産業振興部長>

市観光課で確認を行い、安全上・衛生上、必要であれば早急に改善していきたい。指定管理者のセイカとも施設利用者にとって不便がないよう、大きな修理も年次的に予算を組みながら行っている。今後とも、適切なかたちで利用できるよう管理していきたい。

<市長>

明日、確認を行い、どのように対応するか報告したい。

【市民】

フラワーパークは非常に良い施設であり、生かさないと手はないと思うが、お客が来ないと赤字になってしまう。観光とは別の使い方も考えないといけないと思うが、どのような将来像を持っているのか。

<産業振興部長>

フラワーパークは、現在、県が地域振興公社で管理している。市としても、観光のいいポイントになっているので、観光客がフラワーパークに足を運ぶよう、国内の誘客キャンペーンでも宣伝をしている。また、周辺のたまたま箱温泉は、今年も行ってみたい露天風呂の中で2年連続3回目の全国1位を獲得した。今年度、国からの補助金も決定しており、地熱開発等も視野に入れた総合的な温泉の拠点として整備ができないかを含めて構想を作成し、市・県・国で総合的な整備を進めていきたい。

<市長>

フラワーパークやヘルシーランドは、観光にとって非常に重要な箇所であり、また大切にしなければならない場所だと思う。現在、このヘルシーランドの改修や施設の充実を含めて協議をしている。色々な意見を参考にしながら、地域の方々にも観光客にも喜んでもらえるようなヘルシーランドにしたい。

【市民】

仕事なのか休憩中なのかはわからないが、市役所職員がスマホを使用していた。どうなのだろうか。

<市長>

市役所はサービス機関であるので、市民に対して申し訳ない。そのようなことがあったら、意見として出していただき。職員への指導をしていく。

【市民】

山川の砂むしの上では、常時、蒸気を噴出させている。あの蒸気は多量の塩を含んでおり、風向きによって、フルールランドを見学に来たお客さんの車のフロントガラスに塩粒が点々とつく。先日は、露天風呂や砂むしに来たお客さんのガラスにもついていたようである。一度水の中に通して

から蒸気を噴出させたり、もう少し絞るとだいぶ解決するのではないか。

<産業振興部長>

市が検討している地熱発電については、現在、噴出している蒸気を使うのではなく、別の所で試掘をする予定である。ただ、たまたま箱温泉周辺を整備する中で、あの蒸気を施設全体の中でどのように利用できるのか、また塩害が発生しないような施設にすることを含めて検討していきたい。

<市長>

2020年の鹿児島国体、東京オリンピック・パラリンピックには、多くの方々が来ると思う。特に、たまたま箱温泉周辺は重点的に観光施設の整備を行い、皆さんが利用する温泉としての魅力を高める取組を行ってきたい。

【市民】

松枯れ対策について、松に代わるカシヤシイの類も病気が入っているので、いずれだめになる。ハマビワというクス科の植物は高木にもなり、海風にも非常に強く枯れることもない。そのような樹種を検討して植栽すれば良いのではないか。

<市長>

良い意見をいただいた。色々と詳しい方なので、これからも意見をいただきたい。

【市民】

世帯は170位しかないが、死亡により空き家になっているのが20戸、長期入院や入所が9人おり、約16%が空き家状態である。防犯や瓦が飛ぶといった危険性も出てくるので、空き家対策として取り組みやすい国からの事業等はないのか。

<市長>

市の一番の行政課題が、空き家対策である。

<総務部参与>

市では、10月に「指宿市まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、空き家・空き店舗活用事業を今年度から5年間かけて行うよう計画している。一つには、空き家バンクをつくり、その加入者へのリフォーム助成を検討している。もう一つには、空き店舗の活用も検討しており、総合戦略の中で空き家等についての情報を提供できるような戦略を練っている。

<市長>

貸してくれるような空き家なのか。

【市民】

最近まで住んでいた家もあり、少し手を入れたら貸すことができると思う。ただ、私の地区には区営温泉があるので、風呂を付けていない家もある。また、住民が亡くなった後に、遺品がそのままになっている家もあり、なかなか進んでいない現状がある。

<市長>

地域の方々の協力を得ながら空き家対策を行わなければ、空き家はもっと増えていく。このままにしておくわけにはいかない。空き家に関する様々な法律・条例等が整備されつつあるので、この地区に限らず空き家対策は大切だと思っている。皆さんから、対策方法や知恵をいただけるとありがたい。

【市民】

若い人たちは、昔のような大きな台風を知らないと思う。昔はサツマイモを植えても、潮水で真っ黒になっていた。今は台風が来ないので良いが、法人化をして農業を頑張っている若者のためにも、海岸線に防風林を計画的につくっていく必要があると思う。

<市長>

後々、農業にとって障害になってはいけなないので、農政を含めて取り組みたい。

【市民】

他所に出ている人たちは、実家が崩れて解体をしなければならないときにも面倒をみないと思う。その家の相続人を立てて税金をもらう等、相続のうちから対策をとらなければ、空き家は誰も引き継いでいかない。

<市長>

市も、本腰を入れてやっていく。

【市民】

小学校・中学校で図工の時間に鳥の巣箱を作って設置すれば鳥が増えて、松くい虫対策になるのではないだろうか。

<市長>

松くい虫対策については、どの方法が有効なのか、どうしたら良いのかを模索している。様々な意見をいただきたい。そのためのモデル事業等についても努力していく。

【市民】

空き家対策については、農業を含めた製造業をやりやすくするしかない。そのためには、地熱発電で得た電気を安く提供するという方法が良いのではないだろうか。地熱開発の協議会の進め方次第では、地熱開発がストップしてしまう可能性が高くなるのではないか。

<市長>

開かれた市役所、開かれた議会を含めて、市民に理解できるような体制づくりに努めたい。

<まちづくり担当副市長>

指宿に出向してきて1年半が経つが、指宿の10年先を考えたときに、発展する余地が高いのは、この山川地域だと思っている。海があり、漁港があり、温泉があり、農地もある。地熱開発については、今年3月に条例を制定し、地熱は市民の共有財産と位置づけて、その維持管理を含めて有効に活用するというのと、地域振興に役立てようということの両輪をもって進めていこうとしている。その中の大きなものとして、ヘルシーランド・たまたま箱温泉地域一体の地熱開発と、余熱を使った温泉や農業の6次化等、販路を見据えたかたちでの新しい農業を見つけていくといった取組をモデル的に行い、それを指宿市全体に広げていくことで新しい質の高い雇用が発生するのではないかと考えている。

また、安い電気を進出企業に提供するという話だが、現在は固定価格買取制度があり、地熱の場合は42円で電力会社が買い取ってくれる。これを一般的に売ろうとすると、九州電力は20円位で売っており、その差20円は大きなロストコストになるので、地熱発電で得た利益を企業育成等に使った方が良い選択ではと思っている。